

第8回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会

2017年5月13日(土)～14日(日)

@サンポートホール高松、高松シンボルタワー、JRホテルクレメント高松

プレコングレスワークショップ 24	
企画名	医療人類学の知見をレンズに総合診療/家庭医療の実践を深める -大学の総合診療から僻地の地域医療まで-
日時	2017年5月12日(金) 18:20～19:50
会場	第8会場 (高松シンボルタワー タワー棟 4F BBスクエア)
企画責任者	宮地 純一郎 (浅井東診療所/北海道家庭医療学センター/京都大学医学教育推進センター)
定員	40名
開催の目的・概要	
<p>【開催の目的】</p> <p>総合診療医学・家庭医療学分野が学術的基盤を構築するためには、従来の生物医学だけではなく、他の分野との学際的な連携が求められている。家庭医・総合診療医の基礎学問には様々な分野がある中で、このワークショップでは、異文化理解およびそれを通じた自文化理解の深化を生業とする学問である医療人類学の専門家との事例討論の場を提供する。</p> <p>時には異文化とも言える患者を全人的に理解することが重視され、自己省察も求められる家庭医・総合診療医が、平時は議論をすることが少ない社会・文化的側面に焦点を当て、事例を討論する場を持ち、更にはその背景にある関連した理論や知見を知る医療人類学者とディスカッションすることで、家庭医・総合診療医と医療人類学者との間の学際的な連携、およびそれを通じた実践の可能性を模索する。</p> <p>【概要】</p> <p>家庭医の診療では生物医学的な問題を内科診断学的な臨床推論で解決してだけでなく、社会・文化的な問題を解決するアプローチも求められます。ただ前者が内科学（さらにはその背景となる病理学などの基礎医学や医療疫学など社会医学）などをその基盤として意識されているのに対し、後者について基盤となる学問（およびそれとの関連）を明確にしながら学ぶ機会は比較的少ないと考えられます。本ワークショップではその基盤学問一つとして医療人類学をとりあげます。更には学問と現場の実践の間をつなぐ為に、通常医療者のみで行う症例検討会に医療人類学者が加わることで検討会をより「知的に面白く」することを試みます。</p> <p>具体的には、参加者は6-8名の小グループに分かれて、実際のケースをもとにした症例検討会（およびその討論）に参加し、医療人類学がこれまでに蓄積してきた知見をレンズにして、家庭医療の実践をより深みのある豊かなものにすることを試みます。</p> <p>なおこの企画は主催者の研究活動の一環として行いますので、当日研究参加への同意をお願いする予定です。</p>	